



林業事業者に対する支援について

林業就業希望者が担い手として働き続けていくためには、受け入れ側となる林業事業者の経営体制、雇用管理体制がしっかりしたものでなくてはなりません。新潟県林業労働力確保支援センターでは、下記事業の他、雇用管理改善に関する助成事業を通して認定林業事業者に対する支援を実施しています。

高性能林業機械等の貸付

■機種別の台数 (令和4年12月末現在)

プロセッサ	5台	フォワーダ	8台
ハーベスタ	1台	その他	6台
伐倒練習機 MTW-01	1台	地上レーザースキャナ OWL	1台

森林施業の効率化及び労働強度の低減に有効な高性能林業機械等を所有し、認定事業者への貸付を実施しています。



林業雇用管理・経営指導

林業担い手の雇用管理や経営に関する具体的な課題を持つ認定林業事業者に対し専門家を派遣し、課題解決に向けた指導を実施しています。



林業就業促進資金の貸付

新規事業者の雇い入れに必要な研修資金や就業準備資金を無利子で貸付けます。



緑の担い手を目指す人の相談窓口

～にいがたグリーンワークセンター～
新潟県内の林業就業に関する相談窓口(にいがたグリーンワークセンター)を設置しています。電話やホームページのお問い合わせフォームで受け付けているほか、センター事務所までご来所いただいた際の相談にも対応しています。当センターでは職業安定法第33条に基づき無料職業紹介所としての許可を得ており、林業に関する職業斡旋も行っております。

<お問い合わせ先>
公益社団法人新潟県農林公社 林業労働力確保支援センター
 住所/新潟市中央区新光町15-2 新潟県公社総合ビル4階 電話/025-285-7712
 FAX/025-285-5070 URL/https://www.niigata-rinrou.com/ メール/rinrou@niigata-nourin.jp



住宅に囲まれた土地で高い杉を根元から倒すことは危険があるため、木に登り、ロープで吊った木を上部から伐っていく特殊伐採を行った。腰に墜落防止のロープを巻き、足に爪を付けて木に登り、チェーンソーで木を伐る池田さん。木の上部での作業は危険度が増す

フォレストワーカー INTERVIEW

中越よつば森林組合

杵淵 覚

KINEFUCHI SATORU

池田 将之

IKEDA MASAYUKI

特殊伐採の技術を引き継ぐ山仕事の後継者を育てたい



(池田) 1979年、柏崎市生まれ 長岡市在住(43歳) 林業経験20年目
 (杵淵) 1977年、小千谷市生まれ 小千谷市在住(45歳) 林業経験6年目

今回、特殊伐採研修に参加した理由は何？

池田 長く特殊伐採をやってきたが独自のスキルは身に付けてきましたがこれまで他社のやり方を見る機会がなく、自分の技術を確実したいと思いました。

杵淵 うちの特殊伐採は池田さんをはじめ、レベルが高いと認識しています。私は総合職で登り手ではないのですが、ロープで木に登って特殊伐採を行う藤原さんの技術を学ぶことをきっかけに、組合内の特殊伐採の在り方や技術継承の仕組みを作りたいと考えました。

研修に参加してみた感想は？



池田 皆さんの伐倒に対する考え方が道具の話など、何を聞いても興味深く、勉強になりました。

今後、どのように特殊伐採の仕事を進めていきたいですか？

杵淵 我々は100年先のことを考えて山の仕事をしています。技術を身に付けるために独学で苦労してきた池田さんを見てみると、組合内でも100年先の仕事のやり方を考える必要があると感じます。山主の高齢化や自然災害の激甚化・頻発化から特殊伐採の依頼が増えるなか、安全面や若手への技術継承がうまく進められるように環境を整え、山仕事の後継者を育てていきたいと思っています。

池田 特殊伐採は派手で面白そうに見えるけど危険度も高い。その点もしっかりと踏まえて、若い世代が「特殊伐採をやりたい」と言ったときに、胸を張って「楽しいよ。一緒にやろう」と言えるような環境を作ってあげたいです。